

新潟理窓

第37号

発行所
支部局
県事務局

ご挨拶



新潟支部長
横尾 則幸

このたび、上杉肇支部長の後任を仰せつかりました横尾則幸と申します。微力ではありますが、役員を始め、会員の皆様、本部のご指導を頂きながら、支部長の任を果たしたいと思っております。よろしくお願いたします。また、事務局長を快く引き受けていただいた佐藤先生にはご苦労をおかけしますが、よろしく願います。

私は、昭和59年に理学部II部数学科卒業後、加茂高校講師を皮切りに教員生活をスタートし、三条高校で定年を迎えました。現在は再雇用で、村松高校に勤務しております。この間、テニス部の指導には関沢敏美先生・木南誠先生、栃尾高校では石田哲彌先生、長岡明德高校では上杉前支部長の元勤務させていただき、阿賀野高校では田村仁教育長、県の事業では、坂上隆先生・志田重道先生等々多くの同窓の先輩後輩の皆様にお世話になりました。これまでの恩に報いるべく、ますます活気ある支部となるよう務めさせていただきます。

この度、新潟支部名義の通帳を作成させていただきます。これに伴い会則を改正させていただきます。内容は以下の通りです。

① 新たに次の3点を追加しました。

② 設立日を昭和32年8月4日とした

③ 事務所所在地を支部長宅地とした

④ 運営「本会は、第1条の目的を達成するために、必要な活動をおこなう」第1条は「本支部は理学の普及を図り会員相互の親睦。連絡を密にし、会の発展に寄与するこ

とを目的とする。」

① 会費納入方法を現行の形にあわせました。② 年度の総会参加時に納める。総会欠席の場合は本会口座に振り込む。

三 ゆうちよ銀行の見本に合わせ各条文の順番を変えました。

また、支部の課題として会員数が減少していることがあげられます。その原因の一つに新会員がいなかったことがあります。少子化によることもありますが、何よりも卒業生の情報交換が支部で把握できなくなってきたこと、そこで次年度では本部の所有するデータを頂き、これまで把握できなかった卒業生にも案内を送るよう準備をしています。支部総会をはじめ、支部活動が活発になりますよう皆様のご協力をお願いいたします。

退任のご挨拶



前新潟支部長
上杉 肇

支部長を8年務めましたが、この度、退任することとなりました。これまでの会員皆様のご厚情に深く感謝申し上げます。

この8年間で、最も印象に残っているのは、新型コロナウイルス感染症による活動の自粛です。総会も役員会も対面で開くことができず、会員相互の親睦を深めるという一番の目的が果たせなかつたことが残念です。

幸い、前事務局長の横尾先生の適切な対応により、書面審議などで会の運営は無事に進めることができました。

さて、これからは一会員として、横尾新支部長を支えられるよう微力を尽くしたいと思っております。皆様におかれましては、新支部長を盛り上げていきましよう。

ご挨拶



事務局長
佐藤 直之

この度、横尾県幹事長の後任として県幹事長を仰せつかりました。横尾新支部長を支え、理窓会新潟支部の発展に寄与したいと考えております。どうぞよろしくお願いたします。

現在の県立分水高等学校に勤務し、2年が経ちました。今思えば、現在があるのも理科大のおかげであり、理科大卒の先輩がおられたおかげであると思っております。高校生時代の学級担任である理科大卒の先生から理科大を勧められ、母校である高校の教育実習では理科大卒の先生から数学以外のことも教えられる、新潟県の高教員となつてからは、どこでも理科大卒の先生がおられました。

魚沼では校長が同窓であり、上越では上教研という組織に同窓が多数あり、佐渡では勤務校のPTA会長が同窓であったという希少と言える経験をしました。ただ、昨今の新潟県の高教員採用数は微々たるもので、これでは教員を目指す人材が居なくなるだろうなと感じております。その分、新潟県は令和3年度の資料で四十七都道府県中十四位となる事業所を有しており、理科大卒の方々も多く活躍しているものと思えます。理窓会新潟支部が、企業と教育界の垣根を越えて交流できる場であればいいなと思っております。

私事ですが、8年ほど前の子どもが高校3年生の時の夏休み、2人で鈍行列車に乗って日帰りの理科大見学に出かけました。JR常磐線金町駅から徒歩で街並みを見ながら、新しい葛飾キャンパスを目指しました。校舎は新しく非常に綺麗で、丁度オーブンキャンパスをやっていたこともあり、子どもは目を輝かせて楽しんでいました。子どもが理科大生になることはありませんでしたが、大学選び

